

令和6年度 伊勢地域公共交通会議

第5回 議事要旨

■開催概要

日時：令和7年3月11日（火） 15時30分～17時25分

場所：いせ市民活動センター 2階多目的ホール

出席者：全18名

学識経験者 1名（名古屋大学大学院 環境学研究科教授）

市民代表 3名

一般乗合旅客自動車運送事業者

1名（三重交通株式会社 企画部長）

一般旅客自動車運送事業者

2名（三重県タクシー協会 専務理事、伊勢志摩支部長）

一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車運転者が組織する団体

1名（三交伊勢志摩交通労働組合 副執行委員長代理）

鉄道事業者 2名（東海旅客鉄道株式会社 東海鉄道事業部管理部企画課長、
近畿日本鉄道株式会社 宇治山田駅長）

中部運輸局三重運輸支局

1名（主席運輸企画専門官）

三重県伊勢警察署

1名（交通第一課長）

三重県 1名（地域連携・交通部 交通政策課 課長代理）

伊勢市 2名（伊勢市長、都市整備部長）

事務局 3名（都市整備部交通通政策課）

傍聴者：4名

■議事内容

■ 議案第1号 伊勢市地域公共交通計画について

事務局及び委託業者より議案第1号の「伊勢市地域公共交通計画について」を説明した。

（三重運輸支局 小島主席運輸企画専門官）

- 国土交通省では、「公共交通計画のアップデート」を使い、公共交通計画の実質化に向けて検討を進めている。
- 現行の公共交通網形成計画をベースに基本方針4を追加した構成となっているが、マンパワーにも限界があるため、重点的に取り組む施策を決めることや目標の追加にも優先順位を検討する必要がある。
- 施策を統合することや減らすことで職員が継続的に取り組めるようなボリューム感とすることも重要である。
- ★印の記載にある「重点目標・重点施策」を設定した背景を確認させていただきたい。

⇒★印の「重点目標・重点施策」は、事務局として力を入れて取り組むべき項目として設定している。路線網の維持改善というハード面とSNS等を活用した時代に合わせた周知等のソフト面を重視している。加えて、利用者が快適に過ごせる待合環境の整備等、ハード面の不具合の改善に向けた調査・整理についても重視している。

(市民代表 前田氏)

- 基本方針2目標①の「渋滞対策の実施」について、KPIに影響はないものの、伊勢地域観光交通対策協議会における立体駐車場の整備との方針や、持続可能な渋滞対策の方向性が乖離しているため、調整した方が良い。

⇒観光客の公共交通利用促進を図りたい一方で、自家用車での来訪に対応した駐車場容量の確保への要望もあることから、調整していく。

(三重交通株式会社 小瀬古部長)

- 基本方針1目標③の「鉄道事業者とバス事業者との連携によるダイヤの調整等を行い、市内における鉄道の利用促進」について、KPIが「主要鉄道駅の乗客数」では適切ではない。
- 鉄道とバスは既に連携しており、ダイヤ改正の際には近鉄さんから事前にダイヤをいただいている。
- ダイヤ調整等で利用促進を図ることは良いものの、鉄道駅の乗客数の増減の要因は観光客等の量で左右されるため、KPIとしては難しい。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- 鉄道の利用促進による目標設定が必要である。その結果として、鉄道をどれくらい利用していただけるかが把握できる。
- 乗り継ぎをどう円滑化するかは、ダイヤだけでなく乗り継ぎ施設や待合施設、案内も重要である。それらも含めて乗り継ぎを円滑にする施策があっても良い。その指標として、満足度や乗り継ぎの平均時間等を見ていく必要がある。

⇒ご指摘の通り、乗り継ぎの円滑化と鉄道の乗客数を結びつけることは難しいため、新たなKPIを再度検討する。

(市民代表 西田氏)

- 高齢者の免許返納後の移動手段として、タクシー利用を期待しているが、昼間の田舎はタクシーが来ないことが多い。
- 地域のタクシーがこのような状況では、免許返納も進んでいかない。

⇒(三重県タクシー協会 影山専務理事)新型コロナ以前よりドライバーは増加傾向にあるものの、定着率が低い状況にある。我々の業界では、昼間は空いており都市部に近い範囲では、十分に対応できるとの認識である。合併した範囲でも、30分待っていただければ十分に対応できる。免許返納者を差別することはなく、利用するタイミングだと想定される。

一方で伊勢志摩交通圏は運行するエリアが広く、どこまで行っても迎車料金は一律である。令和5年9月に値上げをさせていただいたが、迎車料金を上げると運賃改定率が下がることから、それであれば、運賃を上げたいという業者がいることも事実である。

(市民代表 奥村氏)

- コミュニティバスの利用促進について、ホームページでの周知やSNSを活用できれば良い。高齢の方もSNSを少しずつ利用できるようになっている。
- ライドシェアについても利用したが、十分に周知できていない現状があった。

⇒SNSやお知らせだけでなく、参加型の企画やキャンペーン等も含めて、情報量の多さに負けない取り組みを検討していく。

(三交伊勢志摩交通労働組合 森副執行委員長代理)

- ドライバーとして仕事をしているなかで、お客さまからはプラスの意見をよく耳にする。
- 小型電気バスを導入した路線では、利用が集中するお昼の時間帯に座席が足りなくなり、高齢者が立席で利用している場面が多くある。
- 環状線はコンスタントに10人ぐらいの利用があり、コミュニティバスについては好評を得ており、走り甲斐がある。

⇒現場の声をいただくことが改善の近道である。乗車率や乗降客数等のデータを活用し、運用の最適化を図ることができればと考えている。

議案第1号 伊勢市地域公共交通計画については、ご意見・ご指摘を反映するとともに、内容を精査することを前提として、承認をいただいた。

■ 議案第2号 令和7年度事業計画（案）について

■ 議案第3号 令和7年度事業収支予算（案）について

事務局より、議案第2号の「令和7年度事業計画（案）について」及び議案第3号の「令和7年度事業収支予算（案）について」を併せて説明した。

（市民代表 前田氏）

- 外国人観光客への情報発信方法について、バスを利用する外国人は個人旅行が殆どであると予想されるため、案内所や宿泊施設等の情報を得られない人が増えてくると思われる。
- 伊勢旅館組合や伊勢市観光協会等と連携し、情報発信方法を考えていただきたい。また、外国人観光客が良く利用する旅行サイトやSNSを活用するのが良いのではないかな。

（市民代表 前田氏）

- 「市制20周年記念 バスの無料お試し乗車券の配布」について、各家庭に2枚の配布に対して、消化率の目標値はあるか。
- 予算確保の根拠等の事業計画について教えていただきたい。
- 実施日程が11/1～11/3となっているが、11/3には全日本大学駅伝対校選手権大会が予定されているため交通規制がかかる。また、同日に楽市や駅前のイベントも予定されている。
- 各種イベントと連携する等、市民が乗ろうと思えるアイデアやツールが無ければ、利用につながらないのではないかな。
- 秋の行楽シーズンの連休となると、お出かけとの兼ね合いもあるため、日程も含めて市民が利用しやすいものにしていただきたい。

（市民代表 奥村氏）

- 無料乗車券は、距離を長く乗られた方は、その分運賃をお支払いすることになるのか。

（市民代表 西田氏）

- 11/1～11/3の祭りの中での実施では、一般的にはバスを利用しない。なるべく利用してほしいなら、どうしても外出する日に設定して欲しい。

（伊勢警察署 藤田課長）

- 11/1は、松阪市内で高校駅伝、11/2は大学駅伝が予定されており、参考にしていきたい。

（名古屋大学大学院 加藤教授）

- 駅伝コースの設定によりダイヤが乱れる心配はあるものの、この3日間で開催することを決めれば、商工会議所や店舗等と協賛してイベントを集約することも良いのではないかな。
- 「市制20周年記念」に銘打って様々なイベントを集め、無料乗車券のチラシに掲載する等、商業関係者にもバスで来てもらうことを自覚してもらい、自身で行動することで来ていただける、考えていただく機会としても良い。
- この取り組みで重要なことは、無料お試し乗車券を利用した方がどれだけ定着したかを把握することであり、簡単なアンケート等を実施することが良い。

⇒無料お試し乗車券の目標値は設定していないものの、予算は松阪市での実施事例の平均を基に、1日2,500枚と設定している。三重交通へ支払う運賃については、利用全ての乗車区間により運賃計算をすることが難しいため、伊勢市における1人あたりの平均運賃を基準に、使用した乗車券の枚数を乗じた額を支払うこととしている。

実施日については、交通規制があるとハードルが高いこともあるため、再度検討する。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- バスが急停車した際に乗客が転倒して怪我をする等、車内で発生する事故である「車内事故」について、減少傾向にあった事故件数が令和4年から令和5年にかけて減少が止まっている状況にある。特に30代から40代の女性の事故が多くなっている。
- 車内事故を防ぐためにはドライバーの注意だけでなく、乗客自身の行動も重要である。
- バスの乗り方に関する基本的な案内に加えて、安全な乗車方法を周知することが重要である。さらに、公共交通利用促進の取り組みの中で、車内事故防止の観点を取り入れるべきである。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- 公共交通計画において属地的な検討や施策が手薄であるが、本計画では地区を特定した施策の検討までは至らないのか。若しくは、地域特有の課題に対応するための重点施策・重点路線としてやるべきことを示すのか。
- 今回の計画策定スケジュールの中でどこまで検討していくかを確認させていただきたい。

⇒地区別の重点路線の考え方について、計画資料の段階では考えてはいない。新型コロナ以降は、一部路線で非常に伸び率が低い、若しくは下がり気味のところがあるため、地域に入って改善ができるかを検討していく。

(名古屋大学大学院 加藤教授)

- 夜間のタクシー需要については、これまで話題に挙がっていたが、昼間についても把握しなくて良いか。
- タクシーも交通手段として重要であると感じているので、公共交通計画の中で改善していく必要がある。また、タクシーの具体的な施策を検討するためにも、調査の必要がある。

⇒タクシーの配車やライドシェアについては、今後調査していく予定である。計画で検討が必要かどうかについては、関係者を含めた幹事会で検討していく。

議案第2号 令和7年度 事業計画（案）について及び議案第3号 令和7年度 事業収支予算（案）については、ご意見・ご指摘を反映することで承認をいただいた。

■ 議案第4号 令和6年度 事業収支補正予算（案）について

事務局より、議案第4号の「令和6年度 事業収支補正予算（案）について」を説明した。

議案第4号 令和6年度 事業収支補正予算（案）については、意見・指摘等は特になく、報告内容に承認をいただいた。

■ 報告第1号 おかげバスデマンド（予約制）の運行事業者について

事務局より、報告第1号の「おかげバスデマンド（予約制）の運行事業者について」を説明した。

報告第1号 おかげバスデマンド（予約制）の運行事業者については、意見・指摘等は特になく、報告内容に承認をいただいた。

■ 報告第2号 伊勢市「日本版ライドシェア」実証事業について

事務局より、報告第2号の「伊勢市「日本版ライドシェア」実証事業について」を説明した。

(三重県タクシー協会 小崎伊勢志摩支部長)

- 全体的に需要はあるという印象だが、木曜日の需要は少なく不要ではないかと考えている。
- 配車が少ないにも関わらず、ドライバーの講習に4時間もかけることに非効率さを感じた。
- Go アプリの配車システムに偏りがあり、運行効率が低下する場面があった。
- 運行スケジュールの調整に手間がかかることや、ドライバーのシフトを均一に割り振りするため、稼ごうとするドライバーは不向きであること等、次回の実証実験を予定しているのであれば、改善していただきたい。

(市民代表 奥村氏)

- Go アプリの現在地から配車する機能に不具合があり、正確な位置情報が反映されず、配車できないケースがあった。
- 住所を手入力することで解決するものの、旅行者等の住所を知らない利用者には不便であり、アプリの改善が必要である。

⇒実証実験が無事に終了したことに感謝申し上げるとともに、Go アプリの不具合や配車システムの課題について、システム提供者に改善を求める必要がある。次回の実証実験に向けて、利用者の利便性向上を目指していく。

報告第2号 伊勢市「日本版ライドシェア」実証事業については、ご意見・ご指摘を次回の実証実験に活かしていくことで、承認をいただいた。

■ 報告第3号 神社125社めぐり（二見エリア）の完成について

事務局より、報告第3号の「神社125社めぐり（二見エリア）の完成について」を説明した。

報告第3号 神社125社めぐり（二見エリア）の完成については、意見・指摘等は特になく、報告内容に承認をいただいた。

■ その他

東海旅客鉄道株式会社より、令和7年2月20日に「早春のさわやかウォーキング」（二見浦駅出発）が無事開催され、参加者が600名弱であったことを報告した。

また、「新幹線で行く！東海道中伊勢参り！」における「スペシャルボイスラリー」について、令和7年2月3日から4月30日まで、伊勢市内を含むエリアで実施していることを、資料を用いて報告した。

伊勢市長より、「楽しく知ろう 伊勢と鉄道」について、令和7年4月26日から5月6日まで賓日館で開催されることを、資料を用いて報告した。

本会議をもって、三重県伊勢警察署の藤田交通第一課長が異動により委員の職を離れることから、挨拶をいただいた。

以上